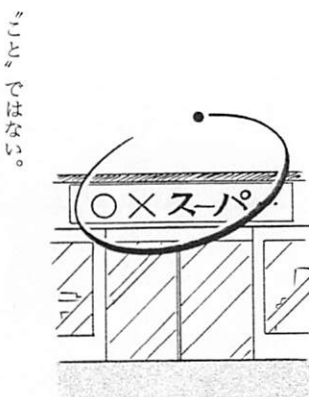


家庭・地域との連携

静岡大学助教授
馬居政幸



「こと」ではない。

お菓子を扱う店。友達と遊ぶ路地裏。通学する道の街路樹。様々な季節の行事に便乗して行われる商店街のバーゲンセール。

これら全てが子どもの生活する地域の特性。それを「楽しい絵」とともにまとめたのが、「生活科マップ」と「生活科暦」である。

生活科を支えてくれる「人々（ひと）」も同じ。生活科の栽培活動のために、子どもが大根の種を買いに行ったお店のおじさん。町の秋をさがして商店街を歩く子どもを見守ってくれるおばさん。活動に使う材料を用意してくれるお父さん。栽培した大根を料理するために包丁の使い方を教えてくれるお母さん。

このような生活科の活動や体験にかかわる全ての方が先生。その候補者リストが「生活科人材バンク」である。

誤解を恐れずにいえば、生活科は家庭や地

方なんてあるのだろうか。」

「家庭の教育力が落ちたから生活科が誕生したのでは」、それにクラスの半分は共稼ぎ。いったいどうやって活かすのか。」

「地域の人達に協力してもらうと、かえって時間がかかる。子どもに教えずして、生活科の趣旨に反することもあるし。」

いずれも、私自身が直接聞いた先生方の疑問である。そこで第二のポイント。

家庭や地域の教育力は、現にあるものではない。生活科のための環境づくりや授業実践を通して「見出し、創る」もの。

教師が、子どもの生活する場を歩いて、生活科の体験や活動にふさわしい「場所や施設や物（もの）」、あるいは四季折々の「行事や習慣（こと）」を見出すこと。ここから生活科は始まる。ただし、それは特別な「もの」や

1

家庭・地域の教育力は創るもの

生活科の学習指導の場は学校の中だけではない。家庭や地域での子どもの日常生活圏全体に広がる。子どもが学ぶ人も学校の先生だけではなく。家庭や地域で子どもが生活する中でかわる様々な人達が生活科の教師になる。

地域の特性に応じて、家庭や地域の教育力をどれだけ活かすことができるか。

これが生活科実践の第一のポイント。家庭や地域との連携が重視される理由である。だが、全国の生活科にかかわる先生方の中に、次のような疑問をもつ方はおられないか。

「地域の特性といわれても……どこにでもある商店や住宅があるだけ。こんな地域に教育

2

地域は家庭と家庭の間（あいだ）

左の写真は浜松市立初生小学校（世原郁男校長）の「人材マップ」。大きさは「六〇×一三〇センチメートル。子ども達がいつも見られるように図書室の前の廊下に掛けてある。

全学年の保護者へのアンケート調査から作った人材リストに基づき、先生方が写真を撮り、に向いて作成したパネル。リストの原簿は、居住地の地図とともに先生方の手元におかれている。

リストアップされた方が参加する授業は生活科のみでない。社会科、国語、特別活動など多種多様。それも授業に来ていただくだけではない。人材マップの写真で親しみを持った子ども達が、課題に応じて自分で判断して訪ねていくことも多々あるとのこと。

この写真を私に送ってくれた初生小の鈴木



儀一先生の手紙に次のような文があった。「最近では、地域に住む老人が、趣味の菊づくりで育てた菊ですが玄関に飾ってくださいと、すばらしい菊をもつてきてくれたり、近くに住む画家が絵をもつてきてくれたりしています。また、青年の人たちが、親子で初生町のふるさとめぐりを計画し、遺跡めぐりをしたりする活動も生まれています。」

静岡県で最も大きい人口五六万の浜松市にある小学校からの報告である。

生活科の人材マップづくりが、学校の教育活動全体を地域に開かせ、地域の人たちを子どもに先生に変えていった見事な例である。

この実践に学ぶポイントは三つ。一つは、人材発掘の場を全学年の保護者のネットワークに求めたこと。二つは、教師が直接出向いて撮った写真を用いてパネルにしたこと。三つは、学校全体でとりくんだこと。

地域のことは地域の人に聞けばよい。その代表が子どもの保護者。家庭と地域は別ものではない。家庭と家庭の間（あいだ）に地域がある。ただし、家庭も学校の調査で初めて隣のおじいさんを菊づくりの先生として見出した。図書室の前のパネルに写真があったから子どもは訪ねる気持ちになった。その子どもの報告で、親は自分が住む町に遺跡があることを初めて知った。何よりも、先生方が写真機をもって訪ねたからこそ自分が人材であると自覚したわけである。学校と教師が外

に「開かれる」ことにより、家庭と地域の教育力は育まれ、地域の特性は創られるのである。

3

お母さん先生の学習活動案

下の写真は、湖西市立鷺津小学校（彦坂貞夫校長）で九月末に行われた会議の写真。出席者は、二年生のお母さん方と担任と教頭先生。内容は子ども達が収穫したさつまいもを焼いて食べる活動についての事前打ち合わせ会。五月半ばから続けてきた活動「やさいをそだてよう」の最終段階での出来事である。

この会議の冒頭、生活科主任の藤田好美先生は次のようにお母さん方に述べた。

「これまでお母さん方と一緒に勉強したいと思いつけてきました。生活科ができたことにより、やっと願いがかないました。」

お父さんやお母さんと、共に育て合い、学び合い、教え合いたい。これが鷺津小の先生方のこの活動に込めた思いであった。

お母さんは各クラス八人、人数を限定したのは、子ども四、五人がグループになつてさつまいもを切り、それを七輪で焼いて食べる活動だからである。各グループに一人ずつお母さん先生がいる、というわけである。お母さんへの依頼は、PTAの学級委員と



母親学級にお願いした。その際、人数に加えて、事前打ち合わせ会と当日の二日間参加していただける方、という条件でお願いした。そして、参加者が明確になり次第、打ち合わせ会の一週間前には届くように、校長名で趣旨説明の文書を、子どもを通じて届けた。打ち合わせ会の資料は通常の学習活動案を「お母さん先生」のために改良したもの。たとえば活動案の中心にある「予想される子どもの動き」の欄には、子どもとお母さん先生が楽しそうに料理する姿の漫画と吹き出しの中の言葉で、活動過程が具体的に表現されている。

その横の「評価と援助」の欄は「お母さん先生へのお願い」に変わる。内容は、①火をおこす時②あいさつをする時③切る時、やく時④食べる時⑤かたづけする時⑥あいさつする時、の順。この中から活動の核となる③の内容を紹介したい。

「◎形や大きさは子どもにまかせて、手をすべらせそうなき、包丁のとりあひをする時には注意してほしい。◎やるまでの間を見守ってほしい。火かげんはわずかしいので、お母さんの手で風向きを調節してほしい。」この欄の結びは「全員に笑顔で参加していただけたらいいですね」という太字の文。いずれも生活科の趣旨を活動に応じて平易かつ簡潔に示した見事な内容である。

活動に参加した後に書いてくれたお母さんの感想には次のような文が見られた。

「机の上や本の中だけで、知識を得ていくことが多くなったこの頃ですが、私達親も含めて、経験して得るもの大切さを子どもたちにも味あわせてやりたいと感じました。」

「自分の子どもだけではなく他の子どもたちの様子からも色々な発見ができて、参加できたお母さんは得たという気がします。」これらの結果を、藤田先生はPTAの学級懇談会で伝えた。多くの参加者から次回は是非参加したい、との感想が寄せられた。

4

共に学び教えあう教師と親と地域の人

この鷺津小の実践に学ぶポイントも三つ。

一つは、藤田先生の言葉に示される先生方のお母さんへの思い。二つは、お母さん先生の学習活動案と事前打ち合わせの工夫。

親は手伝いではなく先生のパートナー。これが生活科の基本と考える。ただし、たとえパートナーと位置づけても、初めて参加するお母さん方は不安で一杯のはず。それが意欲満々に変化した理由は、学習活動案を用いた事前打ち合わせ会で、活動と支援の内容が具体的に理解できたこと。この転換をもたらしたのが、生活科実践で培った鷺津小の先生方自身の豊かな表現力である。

地域と家庭、いずれも活動に参加していた方々の力量は、教師自身の生活科実践力の

バロメーターと考える。手の出し過ぎを嘆く前に、支援の仕方を理解してもらえない教師の表現力こそ問題にすべきである。

ポイントの三つ目は、活動の依頼、活動結果の伝達、いずれにもPTA活動を活かした点。

この活動の成功の因は、数の限定と事前打ち合わせ会出席という二つの条件を満たすお母さんを無理なく選抜できたこと。お母さんのことはお母さんに聞け、というわけである。

さらにPTAは社会教育の場。同様に、地域には、様々な社会教育関係団体がおり、そこでは多様な生涯学習の活動が実践されている。これらを「生活科支援ネットワーク」にすることができようか。これが家庭・地域と連携を進める重要なポイントになる。

そのための新たな第一歩が、PTAの学級懇談会で、親と教師が互いに活動結果や感想

を交換しあうこと。もちろん教師が文書で家庭に伝えることも重要。だが、直接参加した母親の言葉に勝る伝え方はない。

何よりも、懇談会参加者による口コミの威力が、より大きな波紋を家庭と家庭の間に広げ、新たな生活科支援ネットワークの創造へと進むことを期待できないか。

最後に、改めてお母さん方の感想を読み直してほしい。そして思い出してほしい。このような感想は、生活科に取り組み始めた頃の先生方自身の感想ではなかったか。

生活科で「育つ」子どもの姿が先生を変え、父や母を変え、地域の人を先生に変える。子どもは、親も、地域も、教師も、自分で選ぶことができる。変わらなければならないのは親と地域と教師の方。これが生活科誕生の理由であり、家庭・地域と生活科が連携しなければならぬ最も重要な意義と考える。

情報化の進展と教育——実践と新たな展開——

文部省教育改革実施本部／編

・B5・定価一、八〇〇円（〒380）☆税込

情報教育に関する手引

文部省

・B5・定価一、二五〇円（〒310）☆税込

ぎょうせい

社会の情報化の進展に対応した教育を進めるために、今後の取組の参考となる様々な実践事例を紹介するとともに、文部省の進めている施策の概要をビジュアルにまとめた教育の情報化白書。

情報教育の在り方、新学習指導要領で示された情報教育の内容、情報手段の活用、コンピュータ等の条件整備のための具体的方策、特殊教育における情報教育などについて解説。

H
A
R
U
K
A

C O N T E N T S

1

用

●ハイタッチ 聞き上手のすめ	生方恵一	8
●方針を聞く 学校でのエイズ教育の推進について	近藤信司	10

特集 遊びと学び

【新春特別てい談】遊びと学び……海老名香葉子・汐見稔幸・林家いっ平			12		
●遊びと学びと創造	外山滋比古		20		
●遊びと日本人	栗田 勇		21		
●遊びを創るQ&A	多田千尋		28		
●私の体験・遊びから学ぶ					
・自分の工夫という創造性・奥本大三郎	32	・野球ゲーム考案のころ	岡田光雄	33	
・遊び心で楽しく台所仕事・塩田ミチル	34	・遊びこそ最高の能力開発法	三浦雄一郎	35	
●ヤススの目録 教育の日——9月第2土曜日——				森 隆夫	36
●インタビュー(私の自己啓発)中野浩一さん				聞き手遊佐雄彦	40

講座・学校経営の総点検⑩

・校内研修 校内研修の活性化	牧 昌見	44
・コミック教育法規入門⑩ 校務分掌・てんやわんや	下村哲夫・齋藤あきら	46

学校ぐるみの生活科

・実践元年の取り組み⑩ 家庭・地域との連携	馬居政幸	76
-----------------------	------	----

新教育課程・授業づくりのアドバイス⑩

面白い授業をしよう	黒澤俊二	80
やる気を育てる教室(1月)	田中尚子・勝亦章行	84
新しい生徒指導講座—明日を拓く子どもたちのために⑩—		
ターニングポイント⑩ 助けて「その一言から」校内暴力②—	子供の生き方研究会	86
●地球に優しいエコロジ⑩ 地域と学校(2)大気のエコロジーを学ぶ	細木邦子	88
●生涯学習と学校⑩ 地域の中で育つ学校へ	金澤安子	90
●コンピュータ学習環境づくり⑩ 学習ソフト開発の初歩(上)	堀口秀嗣	93

●経営心理学講座⑩ 自他の関係で伸びる	山田雄一	52
●アンダーライン 『流刑の神々・精霊物語』ハインリヒ・ハイネ著	小澤俊夫	63
●古典の知恵に学ぶ 東洋編 氷の北京	佐藤 保	94
西洋編 両面を見る	外山滋比古	95
●日本の歴史を動かした人々 徳川吉宗	斎藤晴雄	96
●学際的研究—人間⑩— にじみの機能と面の論理	剣持武彦	98
●教師の言葉遊び入門⑩ 「人」でない「ひと」がいっぱい!	栗岩英雄	108

カラーページ

●新版花ごよみ——日本の歌と花		
荒城の月	田中澄江	3
●湯けむり文学と自然		
湯ヶ島温泉	野口悦男	55
●ほんとうにあった今月のおはなし		
不滅の六十九連勝下不暮正夫・うちべけい	58	
●フォトエッセイ——暖簾(のれん)		
角屋(旧揚屋)	高井 潔	60
●科学の目		
シールド掘進機	猪野正浩	111
●言葉の散歩道	波多野久夫	54
●DIARY		64
●NEWS SPOT '93		66
●EDUCATIONAL INFORMATION		70
●タウンウォッチング	柳田尚宏	82
●わが校の誇り		101
●私、困ってます(健康倶楽部)小崎慶介		102
●BOOKS		104
●子どもの性の周辺	武川行男	109
●編集室		110

先生の耳は口バの耳

BAD TEACHERS & GOOD STUDENTS

伊藤
悟

伊藤 悟 ◆四六判・388頁・定価・8000円(税込2千310円)

◆教師にも当たりはすれど教師たちの密かな快感◆マセガキに頼りて性を授養◆机も与えられない差別待遇◆教師・校則は憲法よりも上◆代ゼミ神話を書ける生徒たち◆金先生はうざったい◆BEE・BOP恋愛カタログ◆新・高校生給付日記

ほか

時事通信社 東京都千代田区日比谷公園1-3千100
☎03(3591)1111 振替東京4-85000

管理教育にあえぐティーンズの叫びは決して先生の耳には届かない。誰にも心を開けない「裸の王様」のこっけいな姿勢、時代遅れでカッタルい授業、おとなたちが入り込めないティーンズの躍動する世界をさすらい教師が熱く描く。

最新刊!!
好評発売中!!

No. 3 No. 1
キード教育法規 キード教育経営
No. 2
キード生徒指導 キード教育指導

「教職研修」創刊20周年記念増刊号 ●菱村幸彦編

各日5判・310頁・2300円

カフカとユタヤ

A5判・上製・4500円

厚大オナ字林と

主●グー・ツイン・ガール也編／青水建次也尺

開かれた学校と学

●栗原・柴沼・永井編

基礎文
演習

No. No.
1 8
()
No. No.
2 9
論口
文述

試驗对策特集／No.10 教育法規对策特集／
式検対策特集／各冊A5判・40頁・750円

全5冊申込殺到！

●全5冊一括配本中!!

5 年度学務管理職員の
ための特別講座

究明し全国選考問題を徹底分析する。絶大の
言頂を集める特別講座!! 第2冊11月記本!!

別冊教育

取価
A5判・合計価6300円

反中!!
判冊致

戰開參
全7冊平均180頁

特集 子どもは悩んでいる

兒童心理

1月号

兒童心理12月号臨時增刊

A 5・定価一〇〇〇円(税込)

読修 子どもの権利と責任

児童の権利条約で学校とはどう変わるのか／教師がおさえない「条約」理解のポイント●子どもの権利と責任とは（平等・健康・教育・愛情・保護等）
●「権利と責任の心理（自主性・自律性・判断力等）」
学校における子どもの権利と責任／ケース研究・子どもの権利と責任
家庭における子どもの権利 ▼小学校で育てる「子どもの自治」

**MIND
TODAY**
月刊 マインド・トゥデイ
1月号

TEL(03)三九四一〇一一 FAX(03)三九四一〇二六三